

ハヤブサ（ハヤブサ科） 全長オス42，メス49センチ

5月に入り萌黄色、薫風、山笑うなどの言葉がぴったりの季節がやって来ました。多くの野鳥たちが一斉に繁殖期を迎え、一年で最も忙しくなり行動も活発になりました。

大仙市内に生息するハヤブサも、ただいま子育て真っ最中です。垂直に切り立った岩壁の巣で、親鳥が大事に雛を守っていました。

5月5日、やっと雛の姿が見えました。真っ白な綿毛に覆われた2羽の雛。孵化後、1週間から10日位でしょうか。それまでじっと巣の中で雛を守っていた親は、突然巣を飛び出した。100メートル程離れた向かい側の急斜面に降りると、保存していた餌をくわえて巣に戻ってきました。雛が食べやすいように、餌を小さく引き裂きながら与えています。大きめの塊は飲み込むことが出来ません。親が再度小さく食いちぎり、優しく雛のクチバシに差し出していた。2羽の雛は交互に美味しそうに貪っています。お腹がいっぱいになったのか、お食事は終了。雛は親のお腹の下に隠れてしまった。



巣の中からこちらを窺っている。

暫くすると、予想もしない出来事が。親は、巣の中から何か白い塊を掴み飛び出したのです。

岩壁の周囲を何回も旋回すると、地上に降りたり急斜面近づいたりしながら、やっと巣の向こう側の斜面に降り立ちました。すると親はこの白い塊を、ふかふかの枯草の上にそっと置いたのです。そして、周囲を見渡しながらかんぞに巣に戻ったのでした。枯草に置かれたのは、もしかして死んだ雛かもしれません。後でビデオを確認したら真っ白の雛のようです。



親のお腹には雛がいるようだ。



やっと雛が2羽見えた。引きちぎった餌をあたえています。

孵化後順調に育った1羽が、餌か病気か原因は分かりませんが、亡くなってしまったのでしょうか。親はさぞかし辛い決断だったのでしょうか。私も衝撃を受けました。

猛禽類の頂点に君臨するハヤブサであっても、厳しい自然界です。親鳥は、残った2羽が元気に巣立つまで頑張ってくれるでしょう。

5月10日から愛鳥週間が始まりました。



巣から運び出した白い塊。



拡大したら、ひなのようだ。亡くなったのでしょうか。